

【能登原学区】(仮称)千年小中一貫教育校(義務教育学校)に係る地域説明会 概要

【日時】2018年(平成30年)12月1日(土) 18:00~19:30

【場所】能登原公民館 大会議室

【出席】参加者 28人(傍聴1人を含む。)

行政 14人(教育次長, 管理部長, 学校教育部長 他)

【内容】1 開会

2 あいさつ(教育次長, 能登原学区自治会連合会 会長)

3 (仮称)千年小中一貫教育校(義務教育学校)の整備について説明

4 意見交換

5 閉会

あいさつ

(教育次長)

昨年度、義務教育学校として、(仮称)千年小中一貫教育校を整備する計画を策定し、10月に地域説明会を開催した。説明会では、この義務教育学校がどのような学校になるのか、もっと具体的に説明してほしいという意見や、施設整備に関して、特に防災面に対する心配の声があった。これまでの間、いただいた意見を踏まえ、義務教育学校の整備内容について検討を重ねた。

本日は、教育内容と施設整備の考え方について説明し、皆さんからご意見をいただきたい。子どもたちが生きるこれからの時代は、不透明な時代だといわれているが、将来を担い、たくましく育っていける教育を、この義務教育学校で行っていききたい。

(能登原学区自治会連合会 会長)

これからの能登原は、子どもたちに委ねなければならないので、しっかり協議してもらいたい。

南海地震が発生して72年が経過している。市長は、ただちに避難をとられるが、地震発生後2時間は近所を確認してもらいたいと思う。昭和56年以前の家は倒壊する恐れもあるので、学区で配付しているジャッキ等を使い、倒壊した家の下敷きになっている人を助け出し、津波は4時間ほどでやってくるので、それまでは学区民の命を守っていただきたいと思う。

意見交換(出席者から出された意見等)

学校再編・再編後の学校に関すること

○帰りのバスの時間や、子どもたちが放課後に遊ぶ時間はどのように考えているのか。

→(回答)

スクールバスは、能登原小学校と義務教育学校間の運行を基本に考えており、子どもたちの安心安全な通学を保障する。下校時間は、今も集団下校をしており、基本的には決まっている。スクールバスの発車時刻も、時間割や行事に合わせて決まる。保護者から、地域

に帰ってからは遊べないので、学校で少し遊ばせてやりたいという意見も出ているため、乗車する前に遊ぶ時間を設けるなど、どうしていくか、これから検討していく。

○今後の日程を示した資料や、各地域で出されている意見や回答に関する資料がほしい。

→ (回答)

2022年4月の開校をめざしている。それに向けたスケジュール、各説明会でよく出ている質問に対する回答について資料を準備する(別紙資料を添付しています)。

また、市のホームページに地域説明会の概要について掲載しているので、参考にさせていただきたい。

○スクールバス利用について、尾道市では、乗り遅れや学童保育(放課後児童クラブ)利用の対応に苦慮されていると聞く。また、緊急時の対応はどのように考えているのか。

→ (回答)

スクールバスは、尾道市の例を参考にしたいと思っている。バスの座席を決めておき、登校時は、各乗降場所に班長を置いて、学校を休む時や遅れる時は班長に連絡して、班長が運転者に伝えて、誰が乗ったかを確認できるようにしている。到着後は、バスの運転者が乗降状況を教職員に伝えるようにしている。下校時は、教員が点呼をとって、子どもたちをバスに乗せ、何らかの事情で乗らなかった場合には、保護者に連絡をとり、迎えに来てもらう等の対応をしていると聞いている。

バス委託会社と学校との連絡は密にとる必要があると思っており、緊急時の連絡方法など、具体的なことをこれから決めていく。

学童保育(放課後児童クラブ)は、保護者が就労している、留守家庭の子どもを対象に、学校が終わった後、遊びと生活の場を提供している事業である。基本的に、市が、学校の空き教室やプレハブ教室を使って実施しているが、沼隈地域については、合併前からの経過で、各学区にある社会福祉法人のこども園に委託して実施している。義務教育学校になれば、学校から放課後児童クラブへの移動に係る安全面や学校との連携等を考えると、学校内への設置が望ましいと思う。各こども園へ利用状況を聞くと、そのこども園を卒園した小学校の児童や、こども園に通っている園児の兄弟での利用もある。今までの経過や状況も踏まえ、保護者がどのように利用されるのが一番いいのかという意見も聞く中で、放課後児童クラブの利用に支障がないように検討していく。

○途中で学校を変わる子どもが、新しい学校に慣れるのか不安である。

→ (回答)

新しい環境に馴染めるかという不安があるのは当然と思う。そのため、開校までの3年間、事前の交流事業をしっかりやっていく。合同の行事や授業の実施、給食を一緒に食べる等の時間も作り、交流が深まるよう取り組みたい。今は小中一貫教育の取組の中で交流をしているが、限られた学年や回数しかできていないので、これからはもっと回数を増やし、内容も充実させていく。再編に向けて取組を進めている2地域でも、年間計画を立て、子どもたちが仲良くなっていけるように、また、小規模の学校の子どもたちが大きな集団に入っても戸惑わないように取り組んでいる。

○制服や体操服等が変わるとなると、すごく負担になる。

→ (回答)

制服や体操服は、開校準備委員会の中で検討していく。学校と保護者を中心に話し合うことになるが、経済的な負担ができるだけかからないよう経過措置をとりたいと考えている。開校時には、1年生以外の制服は混ざることになるが、次の買い替え時に新しいものを買って、だんだんとそろっていきというように進めていきたい。そのようなことも開校準備委員会の中で、保護者の意見を聞きながら、一つずつ決めていく。

再編の取組を進めている2地域でも、今話し合っている。2020年4月開校予定だが、来年度の1年生のことも踏まえた話合いもしている。制服や体操服については、なるべく早い段階で協議を始め、皆さんが戸惑わないよう、経済的な負担がかからないように考えていきたい。

○スクールバスの乗降場所は学校だけなのか。

→ (回答)

能登原小学校を乗降場所とするのは基本であるが、他の乗降場所の増設も考えている。保護者や地域の意見を聞き、一緒に検討していく。

教育内容に関すること

○能登原小学校は子どもが少なく、団体競技ができない。

○資料にある教育内容は、人数がまとまらないとできないということをはっきり言ってほしい。

→ (回答)

音楽発表会や運動会でも、人数が多ければ色々な楽器が演奏できる、色々な競技ができる。今までのように、文字を正確に書いたり、計算できることが求められているだけであれば、人数に関係なく、一定の成果はあげられたと思うが、これからの子どもたちが生きていく社会は、それに加え、様々な人と協力して問題を解決したり、議論し納得し合ったりすることが求められるため、一定規模の集団の中で、子どもを育てていくことが必要である。

○特別支援教室は、どういう教室か。

→ (回答)

特別支援教室は、特別支援学級に在籍している子どもたちの教室で、知的学級や情緒学級等がある。在籍する子どもの数や、どの階にどの学級を配置すれば、子どもたちにとって教育効果が一番あがるのかを考えて決めていく。

○鞆の浦学園の教育内容との違いは何か。地域の特徴を活かしたものはあるのか。

→ (回答)

学校教育において大切にすることは、どこの学校でも変わらない。教育内容も、学習指導要領で学ぶ教科や内容が決まっているため、基本的には変わらない。ただ、何をテーマ

にするかというところで、各地域の特色が盛り込まれることになる。5つの小学校と2つの中学校の校長と、各地域で大切にしていること、引き継いでいきたい伝統や教育内容を出し合いながら、どのような内容を引き継いでいくか検討している。全ての内容を同じように引き継ぐことはできないので、取捨選択をしながら整理していきたい。

(仮称)千年小中一貫教育校では、学校体育活動に力を入れていきたいと思っている。一定規模の学校になれば集団で行える体育活動も増えるし、能登原小学校ですずっと取り組まれている体育活動をどういった形で引き継いでいくかという話もしている。それぞれの学校が取り組んでいることを、教育内容の中に盛り込んでいくことで、鞆の浦学園との違いが出てくると考えている。

施設に関すること

○建替時期の受験生への対応は。

→ (回答)

施設の配置案を比較検討し、出来るだけ今の学校運営に影響がないような案で進めていこうと考えている。当初は、現校舎の近接での解体・新設を考えていたが、工事中、生徒にできるだけ悪影響がないように、音を軽減したりする対策を講じながら行う。

今の計画案では、既存校舎と離れた場所に新校舎を建設することを考えているが、それでも音が大きい等があれば、防音シートを張ったり、授業中には大きな音が出る作業をしない等の対応も考えていく。

○再編後の能登原小学校の体育館やグラウンド、プールはどのように維持管理していくのか。

→ (回答)

体育館とグラウンドは、社会体育施設であり、体育館は避難所という位置づけもあるので、行政で維持管理する。校舎は耐震建物ではないので、使用できない状況になる。校舎は、再編後、すぐに撤去することは考えていない。今後、まちづくりのあり方、地域活性化という視点で地域の皆さんの意見を聞く中で、撤去する必要があるれば撤去も考えながら、今後の方針により校舎等建物をどのようにしていくか、話をさせていただきたい。

地域活性化に関すること

○地域がこの先どのようなようになるかの考察をしているのか。

○学校がない地域に子育て世代は住まない。

→ (回答)

前回の説明会の時にも、学校再編を行うと地域コミュニティが希薄になることや、過疎化が進むことが心配という観点からも考えてほしいという意見が出された。子どもたちの教育環境の問題と地域活性化の問題は、別の課題として、それぞれしっかり皆さんと話し合っていきたいと思っている。再編に向け開校準備委員会を設置した地域では、地域と行政が地域活性化について話し合う組織を作り、企画政策課に設けた地域活性化担当部署を中心に、話し合いを始めている。